

クリティカルパス、専門外来新設、職場ストレス対策、リスクマネジメントに関する一般演題の発表・討論が福井県済生会病院看護副部長 土橋佐百合先生の司会の下に活発に行われました。特別講演は会長の司会の下、東京大学大学院医学系研究科 医療安全管理学講座 前田正一先生に「医療事故・異状死の警察届け出～あなたはどのようにしてその必要性を判断していますか?～」との演題で御講演いただきました。途中、交通機関の乱れによる演者到着遅延、休憩時間延長等がありましたが、参加者の医療安全に関する関心が高く、熱心な聴講ぶりが印象的でした。特別講演の内容は大変わかりやすく、医療従事者の疑問点にも答える形で参加者には満足していただけたものと感じております。今回のテーマはとても関心が高く、多数の参加とともに活発な質疑応答が行われ盛会に終了することができました。御協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

第9回東京支部学術集会

学術集会会長：東邦大学医学部社会医学講座教授 長谷川友紀



会場風景

2009年2月7日(土)、東医健保会館にて第9回東京支部学術集会が開催され、253名の方が参加されました。「良質で安全な医療提供実現の仕組みづくり」をメインテーマに、会長講演、特別講演、教育講演(2題)、シンポジウム、ランチョンセミナー(2題)、一般演題の発表(口演48題、示説20題)が行われました。

日本医科大学教授の長谷川敏彦先生をお迎えした特別講演では「超高齢社会の病院を構想する…人類の歴史的観点と病院の新たな定義から」をテーマに、古代から現代に至る各時代における病院機能の再定義と、それらを踏まえた高齢社会における病院の姿について、大変有意義なご講演をいただきました。また、教育講演をはじめとする各会場でも、参加者の皆さんが熱心に講演に聞き入る姿がみられ、会場内の随所で活発な意見交換が行われました。

本学術集会を盛会のうちに終了することができましたのも、ひとえに関係者の皆様方の御力添えの賜物と私どもも同心より感謝を申し上げ、開催報告とさせていただきます。

(文責：東邦大学医学部社会医学講座助教 北澤健文)

第8回佐賀支部学術集会

学術集会会長：国立病院機構東佐賀病院副院長 貞松 篤

日本医療マネジメント学会第8回佐賀支部学術集会が2009年2月7日(土)、佐賀市「アバンセ」で開催され240名の参加がありました。



会場風景

今回の学術集会では「今、医療連携に求められているものは—展望と課題—」をメインテーマとして企画いたしました。高齢化社会の到来などにより、今や一医療機関で医療を完結させることは困難になっています。各地域においてシステミックな医療連携を構築し、患者さんに最も適した医療を提供し効率化を図ることが求められています。

このような観点で、佐賀県における医療連携の現状・問題点を明確にすることにより、各医療機関が共通の認識を持つ必要があると考えシンポジウムを組みました。各医療機関において指導的立場で活躍されている方に座長・シンポジストの労を取って頂き、中身の濃い議論が展開されました。

特別講演ではこの分野で全国的に著名な九州大学大学院医学研究院医療経営・管理学講座教授 尾形裕也先生にお願いしました。「機能分化と集中」を中心に、更には医療経営の分野にまでご講演頂きました。

また、一般演題は「クリティカルパス・チーム医療」「医療安全」「医療連携」26題が発表され、クリティカルパス20例が展示され活発な意見交換がなされました。

今回の開催に当たりまして、関係各位に多大なるご協力を賜りましたことを深く感謝申し上げます。開催の報告とさせていただきます。

(文責：国立病院機構東佐賀病院企画課長 宇佐 宏)

第2回大阪支部学術集会

学術集会会長：国立循環器病センター病院長 友池仁暢



会場風景

2009年2月14日(土)、大阪支部第2回学術集会が開催されました。テーマ「医療の質を考える」に沿った活発な議論がにぎやかに展開しました。参加者は、医師、看護師、薬剤師、地域連携担当者等々本学会の主旨にふさわしく多岐にわたる職種の方、総計262名でした。早朝の総会のあと、東京医療保健大学学科長坂本すが先生から「時期を見据えた看護の方向性」の基調講演をいただきました。2つのシンポジウム、一般演題32題(口演：12題、ポスター：20題)の発表があり、最後まで参加者が減ることなく、職域を越え熱い意見交換がなされました。また、ランチョンセミナーでは、国立循環器病センター 橋本信夫総長から「日本の医療の現状と未来」について講演いただき、将来に明るい希望を持ちました。

参加者は、医師、看護師、薬剤師、地域連携担当者等々本学会の主旨にふさわしく多岐にわたる職種の方、総計262名でした。早朝の総会のあと、東京医療保健大学学科長坂本すが先生から「時期を見据えた看護の方向性」の基調講演をいただきました。2つのシンポジウム、一般演題32題(口演：12題、ポスター：20題)の発表があり、最後まで参加者が減ることなく、職域を越え熱い意見交換がなされました。また、ランチョンセミナーでは、国立循環器病センター 橋本信夫総長から「日本の医療の現状と未来」について講演いただき、将来に明るい希望を持ちました。